

基本施策 2 豊かな心と健やかな身体の育成 施策 3 体験活動の充実

◆施策概要

自然体験や文化・芸術活動などの体験活動を通して、児童生徒の豊かな人間性や社会性を育みます。

◆施策を構成する事業

事業の進捗平均
4.0

事業1		子ども体験活動の実施						
事業のねらいと概要		多くの子どもが様々な自然や文化・芸術に触れることができるよう、土日や長期休業の期間を中心に、自然体験活動やものづくり等の体験型事業を継続して実施します。						
R4事業計画		当初予算額		1,429 千円		決算額		853 千円
○ものづくり体験活動や自然体験活動の実施 ○集団活動による、異学校異学年交流や地域の大人たちとの交流								
指標1	参加者の事業に対する肯定的な回答の割合 (%)						R4評価	
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比
指標目標		95	95	95	95	95		
進捗状況	94	97.9	97.7	95.0			4	97.2%
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて								
成果と課題	市内公民館で59講座を実施し、延べ2,956人の参加があり、アンケートでの満足度は95%であった。子どもたちに体験活動や地域の異世代交流の機会を提供し、次世代の地域人材に必要な社会性・協調性を育むことに寄与できた。(コロナ以前の令和元年度は8,340人。)新型コロナウイルス感染症が5類の取り扱いになることに伴い、講座の実施におけるプログラム内容や参加定員の考え方について再考した上で、より多くの子どもたちが参加できるよう検討が必要となる。							
今後の方向性	# 今後は、新型コロナウイルス感染症の5類への引き下げがあるが、その都度の状況を見極めながら実施方式等を検討し、より多くの人が参加できる状況を作り出していきたい。							

※体験内容が変わっても、参加した多くの子どもたちにとって有意義な体験になることを目指します。

事業2		優れた音楽・芸術に触れる機会の提供						
事業のねらいと概要		優れた音楽や文化・芸術に触れる機会を提供し、体験を通して、豊かな心を育みます。						
R4事業計画		当初予算額		0 千円		決算額		0 千円
○「こころの劇場」招待公演のオンライン開催 ○文化芸術による子どもの育成事業 巡回・派遣公演								
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて								
成果と課題	新型コロナウイルス感染症対策として、「こころの劇場」公演をオンラインで開催した。小学校69校の6年生4,954人が参加し、演劇を通して表現することの楽しさや素晴らしさに触れることができた。また、文化庁が主催する「子供育成推進事業」を広報した結果、「芸術家の派遣」や「巡回公演事業」、「子供のための文化芸術鑑賞・体験再興事業」への参加申し込みがあった。文化庁による抽選等の結果、小学校10校、中学校1校の延べ2,543人が芸術家から直接指導を受けることができ、演奏や表現の技術の向上に寄与した。今後も滞りなく事業が実施できるように各校へ助言し、支援する必要がある。							
今後の方向性	新型コロナウイルス感染症の5類引き下げに伴い、「こころの劇場」公演については、令和5年度は劇場開催とする。ただし、平成30年度の予算廃止に伴い、希望する小学校6年生の参加とする。2日間3公演を予定しており、2400名程度の参加を見込んでいる。文化庁が主催する「子供育成推進事業」令和5年度分も順次周知しており、すでに1事業で小学校4校の内定を受けてい							

◆推進委員からの意見・要望等

◆施策概要

子ども・若者に関する相談及び助言、支援事業などを実施し、自立に向けた取組を行います。また、街頭育成活動や青少年関係団体の活動への支援を行うとともに、公民館で、引き続き青少年が安全で自由に過ごすことができる場を確保し、青少年のための健全な環境づくりを進めます。

事業の進捗平均

2.5

◆施策を構成する事業

事業1		若者支援事業						R4評価	
事業のねらいと概要		新潟市若者支援センターで、若者の社会的自立・職業的自立に向け、若者が自分に自信をもち社会性を身に付け、夢や目標に向かって動き出すことを支援します。また、若者支援センター及び地域で活躍できる若者支援者を養成します。							
R4事業計画		当初予算額		5,616 千円		決算額		5,441 千円	
○継続支援者の終了に向けての支援 ○若者支援者養成研修会の開催									
指標1	継続支援終了者の割合 (%)						R4評価		
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		30	41	44	47	50	4	93.7%	
進捗状況	35	28.2	48.9	45.8					
指標2	若者支援者養成研修会参加者数						R4評価		
II 型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	166	4	113.0%	
進捗状況	61	101	100	113					
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて									
成果と課題	継続支援終了者の割合については、丁寧な相談や支援に努め、目標を上回ることができた。今後は多様化する若者の状況に適切に対応するため、臨床心理士を中心とした研修を行い、相談員の専門性をさらに高めていく必要がある。研修会参加者数については、若者支援養成講座へのユースアドバイザー委嘱希望者の参加が増加した(27→32)。一方で、現ユースアドバイザーの参加が100%に至らず(27人中25人)、講座内容の工夫が必要である。								
今後の方向性	多岐にわたる相談内容に対応するため、リファー先との連携を含めたケースワークに関わる相談員のスキルアップを図る研修の場を設定する。 R5年度の若者支援養成講座は第8期ユースアドバイザーの1年目となるため、被支援経験者を講師にするなど、より実践的な講座を設ける。								

事業2		青少年健全育成事業						R4評価	
事業のねらいと概要		市内の繁華街を中心とした街頭育成活動や非行防止キャンペーン活動などを通して、青少年の非行・被害の未然防止に取り組みます。また、各地区青少年育成団体等の活動支援や「わたしの主張大会」の取組を推進し、青少年の健全な成長を支える地域力の活性化を図ります。							
R4事業計画		当初予算額		2,947 千円		決算額		2,009 千円	
○街頭育成活動 ○わたしの主張大会開催									
指標1	街頭育成活動における1回当たりの声掛け数(回)						R4評価		
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		3.1	5.2	5.5	5.8	6.0	1	88.5%	
進捗状況	4.6	2.7	2.6	2.3					
指標2	わたしの主張大会応募学校数・団体数						R4評価		
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		26	27	28	29	30	1	145.5%	
進捗状況	25	9	11	16					
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて									
成果と課題	街頭育成活動については、コロナ禍で声かけを必要最小限とし、見守りを中心とした活動を行ったため、指標目標を下回った。街頭育成体験事業では多くの一般市民が参加し、街頭育成活動の周知や広報につながった。また、警察や学警連との合同育成活動を行い、連携強化を図った。街頭育成活動への協力を得るために、より多くの店舗や一般市民への周知が必要である。 「わたしの主張新潟市地区大会」は対面形式で開催し、発表者8名を含め71名の参加があった。中学校長会へのPR等を行ったことで、応募学校数及び団体数はR3年度より若干増加したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、各学校に校外事業に参加する余裕がなく、コロナ禍前の応募数は見込めなかった。								
今後の方向性	街頭育成活動は、学校行事やイベント等に応じた活動を工夫して行い、関係機関との情報共有を密に図るとともに、特に警察との合同育成活動などの実施を継続していく。 「わたしの主張新潟市地区大会」は、機会を捉えてのPRの積み重ねなどにより、応募校数及び団体数の増加を図っていく。								

※声掛けを積極的に行うことで、非行等の未然防止につなげます。

※学校や育成協からの応募数を増やすことにより、より多くの子どもの参加を促し、学校内や地域での取組を活性化します。

事業3

青少年の居場所づくり事業

事業のねらいと概要

子どもたちが安全で自由に過ごすことができるよう、公民館の一室または共有スペースを「子どもの居場所」として開放します。また、各図書館で青少年向けの図書を集めた「ティーンズコーナー」と学習や読書に利用できる席を設置します。

R4事業計画

当初予算額

111 千円

決算額

62 千円

- 放課後や休日の「青少年の居場所」として、公民館の講座室やフリースペースを青少年に開放
- 夏休みなどの長期休業中の学習室の開放や、映画上映などの単発イベント実施を通じての居場所提供
- 青少年向けの資料を収集した「ティーンズコーナー」の設置

R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて

成果と課題	<p>青少年を対象に、市内17公民館に青少年のフリースペースや学習室を開設し、放課後や休日に安心して利用できる居場所を提供することで、青少年の健全育成へ寄与できた。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止への配慮として利用定員数を減らす等の措置行っていたが延べ62,431人の利用があった。新型コロナウイルス感染症の5類への引き下げがあるが、感染対策や利用制限をどこまで行うか、今後の感染状況を見据えながらの対応が課題。</p> <p>図書館の「ティーンズコーナー」に同世代の子どものおすすめの本の紹介文や図書の展示を行い、居場所の充実に取り組んだ。また、学習や閲覧できる環境を提供した。</p>
今後の方向性	<p>公民館に休日や放課後に気軽に立ち寄れる居場所があることは、青少年の非行防止の一助となり得るため、今後も積極的に開設していくとともに、周知を図る。また、タブレット学習にも対応するべく、フリースペースや学習スペースにおいてのWi-Fi整備についても整備を進めていく。</p> <p>引き続き、図書館に設置した「ティーンズコーナー」の充実に努める。</p>

◆推進委員からの意見・要望等

◆施策概要

未来の新潟を担う子どもたちが、自分たちの住む郷土新潟を広く知り、深く愛せる人になるよう、学校において地域学習を推進するとともに、公民館においても地域の文化や伝統を体感できる活動を推進します。

事業の進捗平均

4.0

◆施策を構成する事業

事業1		学校における地域学習の推進	
事業のねらいと概要		学校において、地域の特色を調べたり、発信したりするなどの活動を行い、地域に対する誇りや地域を愛する心を育みます。	
R4事業計画	当初予算額	0千円	決算額
0千円			
○全ての小中学校において、総合的な学習の時間に地域への愛着を深める単元を位置付けた指導計画の実践			
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて			
成果と課題	全ての小中学校が地域への愛着を深める「大好きにいがた」という単元を指導計画に位置付けた。コロナ禍の中にあつて、地域人材のゲストティーチャーの人数や回数を絞るなど様々な工夫をしながら、地域への愛着を深める活動を確実に推進した。		
今後の方向性	インターネットから情報を集めたり、オンラインで地域の人と交流したり、ホームページで地域のことを発信したりするなど一人一台端末と高速ネットワーク環境を生かして、児童生徒に情報活用能力を発揮させながら、地域に対する誇りや地域を愛する心を育成していく。		

事業2		伝統文化の体験学習						
事業のねらいと概要		子どもたちが、地域や日本の伝統文化を体験するための学習の機会を設けます。						
R4事業計画	当初予算額	877千円	決算額					
680千円								
○地域の歴史や伝統文化を学習・体験 ○地域の魅力を学び、地域への愛着を育む								
指標1	伝統文化の体験学習事業の参加者数			R4評価				
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比
指標目標		1,200	前年度以上	前年度以上	前年度以上	6,400		
進捗状況	6,293	1,906	3,051	6,689			4	219.2%
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて								
成果と課題	市内公民館で56講座を実施し、延べ6,689人の参加があった。地域に根付いた伝統や文化を子どもたちに体験してもらうことを通じて、地域への愛着を育むことに寄与できた。伝統文化に関する講座等は、地域の行事と結びついているものや、地域団体と連携するものが多いことから、行事や事業実施の可否について地域団体等の判断に左右される場合が多く、コロナ禍においては大きな影響を受けざるを得ない状況であった。新型コロナウイルス感染症が5類の取り扱いになることで、地域の行事等の再開も増えてくることが予想されるため、事業の連携再開ができるよう、連携先と協議を進めておく必要がある。							
今後の方向性	新型コロナウイルス感染症対策に引き続き留意しながら、その都度、地域行事等の実施状況を見極めながら検討を進め、積極的により多くの人に参加できる状況を作り出す。							

◆推進委員からの意見・要望等

◆施策概要

日常生活の中で市民一人一人の人権が尊重され、偏見や差別を生み出さない社会を実現するための人権教育、同和教育、男女平等教育を進めます。職員一人一人が人権問題や同和問題に関心をもち、理解と認識を深め、市民の良き相談役・パートナーとしての資質を高めるとともに、公民館では、女性セミナーや人権講座、家庭教育学級などの事業を通して、市民に人権意識を啓発します。また、人権問題や同和問題について、教職員が差別の現実を正しく認識し、子どもへの教育を推進します。

事業の進捗平均

◆施策を構成する事業

事業2		公民館における人権教育の推進						
事業のねらいと概要		人権意識の啓発を図るため、女性や子ども、障がいのある人や外国籍の人たちの人権を学ぶ講座などを実施・継続します。						
R4事業計画	当初予算額	910 千円				決算額	845 千円	
○男女共同参画について学ぶ女性セミナーや、障がい者・子ども等の人権について学ぶ講座、国際理解を促す講座を実施 ○家庭教育学級等の子育て関連講座においての、積極的な意識啓発								
指標1	公民館の人権教育事業の参加者数						R4評価	
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比
指標目標		500	前年度以上	前年度以上	前年度以上	3,300	4	110.4%
進捗状況	3,225	2,227	2,708	2,990				
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて								
成果と課題	市内公民館で44講座を実施し、市民の人権意識啓発に寄与することができた。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止への配慮として利用定員数を減らす等の措置行っていたが、延べ2,990人の参加があった。近年は、規模の大きいイベント形式の人権啓発事業を実施しづらい状況であったが、新型コロナウイルス感染症が5類の取り扱いになることに伴い、どのように利用者対応を緩めていくかの見極めが重要となる。							
今後の方向性	新型コロナウイルス感染症対策に引き続き留意しながら、講座実施において、内容を踏まえた上で、より多くの参加者を受け入れることができる方法を臨機応変に考えていく。							

事業3		新潟市人権教育研修会						
事業のねらいと概要		行政職員（市長部局、教育委員会）や学校教職員等を対象に、人権教育研修会を開催し、職員一人一人が人権問題や同和問題に関心をもち、理解と認識を深め、市民の良き相談相手役・パートナーとしての資質を高めます。						
R4事業計画		当初予算額		25千円		決算額		17千円
○人権教育研修会の開催								
指標1	アンケートで「人権問題・同和問題への理解が深まった」と回答した職員の割合(%)						R4評価	
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比
指標目標		100	100	100	100	100	3	96.7%
進捗状況	94	97	100	97				
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて								
成果と課題	11月7日にオンライン研修を実施し、行政職員や学校教職員358名が参加した。「部落差別解消推進法」、「新潟市子ども条例」について関係課から説明を行った後、講演「いっしょに考えよう！子どもの人権 ～ひとりひとりが大切な存在～」(講師 木村いほ子 公益財団法人新潟県女性財団 専門員)を実施した。 「理解・認識が深まった」と回答した割合は、96.7%(教職員100%、行政職員87%)であった。オンラインとなったことで、教職員全員が研修に参加する学校もあり、より一層人権問題に関する認識や課題を共有することができた。今後、特に行政職員の理解を深めていくことが課題である。							
今後の方向性	今後も内容の充実に向けて、関係機関・団体と連携し、参加者のアンケート結果を参考にしながら研修テーマを設定していく。引き続き、効率的かつ効果的なオンラインによる研修とし、多くの職員が参加できるよう、研修動画の配信(研修後、一定期間視聴可能)を行う。							

※年度により研修に参加する職員が変わっても、全ての職員が確実に理解できるような研修を目指します。

事業5		各種啓発図書の展示						
事業のねらいと概要		人権啓発や男女共同参画等を推進するために、関係課と連携協力し図書を集めた展示を実施するとともに、学校での授業や学校図書館の展示に必要な図書を提供します。						
R4事業計画		当初予算額		0千円		決算額		0千円
○関係課と連携協力した、人権啓発や男女共同参画等の展示の実施 ○人権啓発や男女共同参画等を推進するため、必要な図書を学校へ提供								
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて								
成果と課題	「実現しよう『男女共同参画社会』」「ミニ人権展」など、関係課からの展示依頼にあわせて、人権啓発や男女共同参画等に関連した資料の展示を行った。 学校での図書館の利活用を推進するため、団体貸出(学校貸出図書搬送を含む)を継続し、学校からの求めに応じて資料を提供できるよう、蔵書の整備に努めた。							
今後の方向性	引き続き、関係課と連携し、資料を収集し展示機会の維持に努める。 学校への図書資料提供は、今後も制度を維持し、蔵書の整備に努める。							

◆推進委員からの意見・要望等

◆施策概要

家庭教育力の向上に向け、学校と家庭及び地域と家庭の連携の推進、家庭教育に関する不安や疑問などに対応する学習機会や相談体制の充実に取り組みます。子育て中の保護者が安心して学習できる機会や家庭教育に関する情報を提供するとともに、子育ての悩み等を共有できる仲間づくりを進めるなど、学びを生かす取組も支援します。

◆施策を構成する事業

事業の進捗平均
3.5

事業1 家庭教育振興事業										
事業のねらいと概要										
子どもの成長期に合わせて、子育てに関する知識や親としてのかかわりなど必要な情報を提供します。また、学校などと連携・協力しながら、家庭教育の啓発を図ります。										
R4事業計画		当初予算額			8,000 千円			決算額		4,905 千円
○出産前・乳児期・幼児期・児童期・思春期の子育て各期にわたる家庭教育学級や、父親や祖父母を対象とした子育てに関連した講座の実施										
○学校を会場にした子育て学習出前講座の実施										
指標1 家庭教育学級でのアンケートで「今後に生かすことができる」と回答した参加者の割合(%)							R4評価			
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比		
指標目標	前年度以上		前年度以上	前年度以上	前年度以上	90	3	96.5%		
進捗状況	84.4	91.1	91.2	88.0						
指標2 保護者を対象とした家庭教育にかかわる講座等を実施した小中学校の割合(%)							R4評価			
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比		
指標目標	70		前年度以上	前年度以上	前年度以上	100	4	107.8%		
進捗状況	93.8	71.2	70.4	75.9						
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて										
成果と課題	市内公民館で家庭教育学級80講座を実施し、子育て期の保護者の家庭教育力向上に寄与することができた。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止への配慮として利用定員数を減らす等の措置行っていたが延べ2,860人(コロナ以前の令和元年度は4,983人)の参加があり、アンケートで「今後に生かすことができる」と回答した割合は88%であった。また、就学時健診や入学説明会等の機会に集まる多くの保護者を対象に、小・中学校123校が公民館や学校、PTAが主催する子育て関連講演会等を実施し、子育て期の親の家庭教育力向上に寄与することができた。(その内の小学校89校、中学校9校は公民館主催の子育て学習出前講座を実施。)コロナ禍で減少した実施校数を再度伸ばしていくためには周知方法等に工夫が必要となる。									
今後の方向性	今後、新型コロナウイルス感染症も5類の取り扱いとなるが、参加者の意見交換・交流を積極的に行うことが家庭教育学級では重要と考えているため、引き続き感染対策を行いながら、実施していきたい。また、オンラインの活用も進めるほか、父親の意識啓発について積極的に取り組んでいきたい。									

事業2 子育て支援事業										
事業のねらいと概要										
子育て中の保護者に家庭教育の知識や情報を提供します。また、子育てフリースペース事業では公民館に乳幼児期の親子が自由に出入りできる場所を設けたりイベントを実施したりして、親同士の交流を促進します。										
R4事業計画		当初予算額			256 千円			決算額		240 千円
○乳幼児期の親子が気軽に利用できる居場所の設置										
○親子で気軽に参加できるイベント等の開催										
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて										
成果と課題	市公民館17館で、親子で気軽に利用できるフリースペース(子育てサロン等)を24カ所で開設し、延べ5,027人の利用があった。各所にはボランティアスタッフを配置し、利用者同士が会話できるよう促すなど、親子の交流促進に寄与することができた。昨年度から引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策として利用人数制限を課した中で受け入れを行っていたが、新型コロナウイルス感染症も5類の取り扱いとなることで、どのように利用者対応を緩めていくかの見極めが重要となる。									
今後の方向性	気軽に立ち寄り、同じ子育て中の保護者たちと交流できる居場所があることは、子育てへの負担感・不安感軽減に直接的につながるため、今後も感染症対策に留意しながら、積極的に開設していく。									

◆推進委員からの意見・要望等

◆施策概要

子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をよりよく生きる力を身に付けていく上で欠くことのできない読書活動を推進するとともに、読書を通して親子のきずなを深めるために、保護者を対象とした取組を行います。また、乳幼児と一緒に図書館を利用しやすいように環境を整備します。

◆施策を構成する事業

事業の進捗平均

4.0

事業1		ブックスタート事業							
事業のねらいと概要		乳幼児期からの読書習慣の形成を目指すために、1歳誕生歯科健診会場でボランティアが親子一組ずつに絵本を通じた親子のふれあいや読み聞かせの意義などの説明と絵本の読み聞かせを行い、希望する絵本を1冊手渡して絵本を通じた親子のふれあいや読み聞かせの大切さを伝えます。							
R4事業計画		当初予算額		3,247千円		決算額		3,116千円	
○ブックスタート事業の継続		○次年度のアンケート準備							
指標1	ブックスタートアンケートにおいて家庭で読み聞かせをしていると回答した割合(%)						R4評価		
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標			83		85				
進捗状況	81.4		97.4						
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて									
成果と課題	感染症対策で中止していた読み聞かせを、希望者のみ全区で再開した。歯科健診時にブックスタートを受けられなかった親子に対しては、図書館で個別に実施しているが、R4年度4月より個別に実施する図書館を市内7館から全図書館19館に拡大した。R5年度に実施するアンケートについて関係課と調整し準備を行った。								
今後の方向性	受診者全員の読み聞かせを再開するため、関係者と協議を進める。3歳児健診においてブックスタートアンケートを行い、結果を今後の事業実施に活かす。								

※3歳児保護者対象の「ブックスタートアンケート」(隔年実施)で調査します。

事業2		赤ちゃんタイム							
事業のねらいと概要		乳幼児連れの保護者のための時間を設けるとともに、一般の利用者への周知と理解を図ることで、乳幼児を連れた保護者が図書館を利用しやすい環境づくりをする。							
R4事業計画		当初予算額		0千円		決算額		0千円	
○赤ちゃんタイムの実施		○保護者へ読書の働きかけ							
指標1	中央図書館及び各区中心図書館において週2回以上実施した館数						R4評価		
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		3館は週2回	4館は週2回	6館は週2回	7館は週2回	全7館で週2回以上実施			
進捗状況	2館は週2回(5館は週1回)	3館は週2回(4館は週1回)	5館は週2回(2館は週1回)	7館は週2回			4	140.0%	
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて									
成果と課題	R4年4月より赤ちゃんタイムの実施回数を2館で拡大した。中央図書館及び全ての中心図書館で週2回赤ちゃんタイムを実施し、家庭での読書環境の充実だけでなく図書館を利用しやすい環境づくりにつなげることができた。今後はさらに保護者への周知と一般利用者への理解を図るため効果的な広報が必要である。								
今後の方向性	引き続き、7館で週2回の赤ちゃんタイムを実施する。図書館の公式ツイッターや子育て応援アプリを活用し、子育てに役立つ情報を発信して保護者への周知を図る。								

◆推進委員からの意見・要望等

基本施策 8	人生100年時代を見据えた循環型生涯学習の推進	施策 1	学び育つ各世代への支援	視点2
--------	-------------------------	------	-------------	-----

◆施策概要

あらゆる世代の市民の主体的な学習活動を推進するため、高等教育機関及び企業と連携しながら、時代や社会の変化並びに市民の学習ニーズに応じた多様な学習機会の提供を効果的に進めていきます。また、市民一人一人の学習活動や、市民が学びに出会い、学びを深めていく場を支援するため、広く学習情報や資料を提供していきます。また、生涯にわたる学びの基礎となる読書習慣の定着を図るため、子どもの読書環境を整備します。

◆施策を構成する事業

事業の進捗平均
3.0

事業1									
事業のねらいと概要		にいがた市民大学開設事業							
現代的な課題など専門性の高い講座や、時代や社会の変化並びに市民の学習ニーズに対応した講座を通して、より豊かな市民生活に資するため、高等教育機関等と連携しながらにいがた市民大学を開設します。受講後は学習で得た知識や経験等が地域活動や教育活動で生かされるよう、受講生による自主グループ化の支援に努めます。									
R4事業計画		当初予算額		5,000 千円			決算額		3,545 千円
○前期講座6講座 ○後期ゼミ3講座 ○特別講座 ○自主グループ化の支援									
指標1		受講者の満足度(前期・後期講座、特別講座)(%)					R4評価		
II型		R1	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	95	4	112.8%
進捗状況		89	75	78	88.0				
指標2		受講者主体による自主グループ数					R4評価		
I型		現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比
指標目標		15	16	17	18	19		1	80.0%
進捗状況		14	11	10	8				
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて									
成果と課題		基本講座6講座(うち2講座はゼミナール形式の後期講座も実施)、特別講座3講座を実施し、受講者は全体で483名(基本322名、後期33名、特別128名)であった。 受講者の満足度は、新たに、オンライン見逃し配信や親子を対象とした講座を実施するなど受講者層の拡大につながったことで全体で88%とR3年度を上回り、指標目標を達成した。 自主グループ数は、新型コロナウイルス感染症の影響による活動停滞により2団体が解散したほか、一部特別講座において講座終了時に自主活動に向けた話し合いの場を設けたが、グループ化には至らず指標目標を下回った。 民間などにおいて様々な講座が実施されている中、市民大学が実施すべき講座について改めて検討する必要がある。							
今後の方向性		大学や企業等で多様な講座が開設される中、市民大学で開設すべき講座を検討し実施する。 受講者層拡大に向けてオンラインを活用し、市民のライフスタイルに応じた学習の場を提供していく。 受講後に学習で得た知識や経験等が地域活動や教育活動で生かされるよう、引き続き自主グループ化等の支援に取り組む。							

事業2									
事業のねらいと概要		現代的課題を学ぶ公民館事業と学習成果を発表する場の提供							
市民の自発的な学習活動を支援するために、青年期から高齢期までの各世代の課題やニーズに応じた様々な公民館事業を展開します。また、文化祭などを開催し、市民に学習成果を発表する場を提供します。									
R4事業計画		当初予算額		2,739 千円			決算額		2,270 千円
○高齢者の孤立、地域関係の希薄化、若者の地域離れなど、地域や社会の課題等について考える講座を実施 ○文化祭や芸能祭、展示会など、公民館活動で学んだ成果発表の機会を提供									
指標1		現代的課題を学ぶ講座等に参加した人の満足度(%)					R4評価		
I型		現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比
指標目標		95	95	95	95	95	95	3	102.7%
進捗状況		95	93.5	91.5	94.0				
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて									
成果と課題		市内公民館で153講座を実施し、延べ35,046人の参加があり、アンケートでの満足度は94%であった。市民生活に即した学習機会や、地域課題解消について考える機会、地域の多世代交流の機会の提供に取り組んだことで、地域への愛着向上や地域の活性化に寄与することができた。R3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止への配慮から、公民館活動の成果発表の機会である文化祭や芸能発表会等の規模の大きなイベントでは中止となるケースも見られたが、新型コロナウイルス感染症が5類の取り扱いとなることで、大規模イベント等をどのように再開していくか検討が必要となる。							
今後の方向性		新型コロナウイルス感染症が5類の対応となることで、停滞気味であった市民の学習活動へのモチベーション向上を図り、その都度の状況を見極めながら、積極的に主催講座等実施に取り組んでいく。							

※課題やニーズに応じた公民館事業を展開し、参加者の満足度を維持していきます。

事業3		子どもの読書環境整備事業						
事業のねらいと概要		子どもが読書習慣をつけるために、子どもまたは親子を対象とした事業の実施やうちどく（家読）推進のために各種事業を実施し、子どもの読書環境整備を進めます。						
R4事業計画		当初予算額	360千円			決算額	341千円	
○新潟市子ども読書活動推進計画の推進 ○子どもまたは親子を対象とした事業の実施やうちどく（家読）推進のために各種事業の実施								
指標1	市立図書館の児童書貸出冊数						R4評価	
I型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	1,185,000	3	99.5%
進捗状況	1,160,205	957,839	1,071,306	1,066,256				
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて								
成果と課題	うちどく推進のため、読書を楽しむ、記録する喜びを感じる機会として全館で「うちどく読書ノート」を配布し、読書環境の整備に取り組んだ。「おはなしのじかん」では感染症拡大防止対策を講じながら、親子で絵本の読み聞かせやわらべうたなどの体験を通して読書活動を推進した。また、出産前後の保護者を対象とした民間主催のイベントに参加し、家庭での読書活動について働きかけを行った。 児童・生徒に対しては学生司書活動などの事業を実施したが、成果にはつながらなかった。今後は事業の見直しを行い、利用拡大につながるよう努める。							
今後の方向性	他の施設や団体との連携を図り、読書を啓発する様々な事業を計画・実施することで、子どもや親子の読書活動への働きかけを行っていく。児童・生徒には電子書籍図書館用IDの配布を行うことで読書環境の整備・充実を図る。また「認定司書講座」などの事業を実施し、読書活動につながるよう働きかけを行う。							

事業4		市民に身近な生活課題解決のための情報提供事業						
事業のねらいと概要		市民の生活課題や地域課題の解決に役立つよう、資料や情報を提供するとともに様々な講座を開催します。						
R4事業計画		当初予算額	0千円			決算額	0千円	
○レファレンスサービス（調査相談）の実施 ○「くらしの情報講座」と「ビジネス支援セミナー」の実施 ○レファレンス事例のホームページ公開や、国立国会図書館レファレンス協同データベースへの参加								
指標1	情報提供を受けた人と講座に参加した人の満足度（％）						R4評価	
I型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	90	4	103.4%
進捗状況	82	94	87	90				
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて								
成果と課題	「くらしの情報講座」と「ビジネス支援セミナー」を開催し、R3年度と同程度の満足度を維持したが、参加者の世代に偏りがあるため、今後は幅広い世代が参加できる工夫をする。 また、レファレンス研修を実施し、レファレンス満足度調査の結果はR3年度を上回った。 レファレンス事例の蓄積と公開については、R4年度に受けたレファレンスの中から15件を図書館のホームページと国立国会図書館レファレンス協同データベースで公開し、広く役立ててもらうことができた。							
今後の方向性	講座のテーマ設定については、幅広い世代に役立つテーマを設定するよう工夫する。 レファレンスサービスについては、引き続き研修を実施する。 今度も蓄積したレファレンス事例を、新潟市の図書館ホームページや国立国会図書館レファレンス協同データベースで公開する。							

◆推進委員からの意見・要望等

◆施策概要

「地域とともにある学校」を目指し、学校と地域が共通の目標をもって、学校と社会教育施設、家庭、地域をつなぐネットワークづくりをさらに進め、協働事業を一層推進します。

◆施策を構成する事業

事業の進捗平均
3.5

事業1		コミュニティ・スクール推進事業						
事業のねらいと概要		学校運営協議会を設置し、保護者、地域、学校が一体となって子どもの成長を支える体制を築き、「これからの社会をたくましく生き抜く力の育成」を目指した学校づくりを進めます。						
R4事業計画		当初予算額	24,750 千円			決算額	21,994 千円	
○伴走支援: 165校の学校運営協議会の円滑な設置		○後方支援: 制度の周知、よりよい成果事例の広報						
指標1	学校運営協議会の設置中学校区数 ※()内は学校数	R4評価					進捗	前年度比
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6		
指標目標		4(12)	8(22)	56(165)	56(165)	56(165)	4	600.0%
進捗状況	-	4(12)	8(22)	56(165)				
指標2	制度が機能していると回答した協議会の割合(%)	R4評価					進捗	前年度比
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6		
指標目標		80	80	80	85	90	4	104.5%
進捗状況	-	88	89	93				
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて								
成果と課題	全ての市立小中学校(165校)がコミュニティ・スクールとして学校運営協議会を設置し、R4年度始めに学校運営の基本方針が承認された。学校が抱えている課題を共有することで、解決に向けた取組みについての協議や地域と学校がともに育む子どもの姿についての熟議を進めることができた。 また、全ての学校が年間を通じ、R5年度の学校運営の基本方針を策定することができた。 一方で、委員は徐々に当事者意識が高まりつつあるものの、変容が現れたり、成功体験を実感したりできていないことに加え、合意形成を図る経験の不足などにより、協議に消極的な一面も伺える。							
今後の方向性	引き続き、好事例の広報、研修会やシステムの活用などによる情報共有を図る。 協議会において自由に発言できる風土の醸成や、新規にコミュニティ・スクール講座を開催し、対話を深める調整機能の役割を担う人材育成等により、質が高く円滑で効果的に協議会の運営が図られるよう手立てを講じる。							

事業2		地域と学校パートナーシップ事業							
事業のねらいと概要									
学校教育活動のさらなる充実を図り、学・社・民の融合による教育を進めることを目的として、学校と地域を結ぶ地域教育コーディネーターを配置し、以下の取組を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校と社会教育施設、地域活動を結ぶネットワークづくり ・学校の教育活動、課外活動における地域人材の参画と協働 ・学校における地域の学びの拠点づくり ・学校の教育活動の様子を地域に発信 ※「地域活動を結ぶネットワークづくり」や「地域人材の参画と協働」には、市立高等学校におけるインターンシップも含まれています。									
R4事業計画		当初予算額		128,711 千円		決算額		129,711 千円	
○コミュニティ・スクールの導入初年度における「その学校らしさのための重点化」「目標共有の会を経ての役割分担」及び「特色ある教育活動の市民への周知」の推進									
指標1	1校あたりの学校支援ボランティア延べ人数						R4評価		
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		1,320	2,080	2,110	2,140	2,170	4	107.1%	
進捗状況		1,989	2,015	2,159					
指標2	市立高校生インターンシップ受け入れ企業数						R4評価		
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		11	26	28	30	32	2	176.9%	
進捗状況		22	11	13	23				
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて									
成果と課題	ボランティア延べ人数は指標目標を上回った。教育ビジョンを踏まえて、重点化する活動を決定し、学校運営協議会などで目標共有と役割分担が行われた成果である。ボランティアの依頼や受け入れは、新型コロナウイルス感染症のためのガイドラインに沿って、実施可能な取組を行った。 インターンシップ受け入れ企業数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて指標目標を下回ったが、前年度に比べ数値を伸ばすことができた。今後、インターンシップに賛同する企業数を増やす方を講じていく必要がある。								
今後の方向性	全体研修会や区研修、事業通信などを通じて、目標共有と役割分担が効果的に実施されている事例や、新たなボランティア募集の仕組みを紹介していく。 高等学校におけるインターンシップがより充実した取組となるように連携を密にし、新潟市高等学校等教育コンソーシアムの枠組みを活用することで、地域探究学習や課題研究などに必要なサポートを行う。								

◆推進委員からの意見・要望等

基本施策 9	地域と学校・社会教育施設が協働する教育の推進	施策 3	地域人材や高等教育機関、企業等との連携の推進	
--------	------------------------	------	------------------------	--

◆施策概要

地域の専門的な技能や経験をもつ人材、企業等の協力により、平日の放課後や土曜日ならではの豊かな体験活動や多様な学習機会を児童に提供します。地域コミュニティ協議会などの地域団体と連携・協働しながら、地域課題の解決を支援します。大学との連携を推進し、大学の人的・物的資産を積極的に活用することにより、市民のニーズにより広く対応したり、教職員研修の質を高めたりします。

事業の進捗平均

1.8

◆施策を構成する事業

事業1		子どもふれあいスクール事業						R4評価	
事業のねらいと概要								進捗	前年度比
<p>小学校PTAと教育委員会の共催により、週1～3回平日の放課後や土曜日の午前中に小学校の体育館や余裕教室などで、児童の自由遊びを基本にした「子どもふれあいスクール」を開催し、体験活動など様々な活動を実施します。また、放課後児童クラブと連携した取組を進めます。ふれあいスクールにおける体験活動や学習機会提供のための「ふれあいプログラム」を作成し、多様な活動を実施します。</p>									
R4事業計画		当初予算額	28,773 千円			決算額	16,459 千円		
<p>○ふれあいプログラムの整備と、各ふれあいスクールでの活用の推進 ○各校の運営の工夫を研修会や運営委員会で紹介</p>									
指標1	子どもふれあいスクール平均児童参加率 (%)						R4評価		
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		9.4	13.6	13.7	13.8	13.9	2	93.0%	
進捗状況	13.4	10.3	11.4	10.6					
指標2	ふれあいプログラム活用校数						R4評価		
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		5	38	39	40	41	1	625.0%	
進捗状況	35	6	4	25					
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて									
成果と課題	<p>平均児童参加率は目標に達することができず、R3年度と比べても減少したが、実施校数や実施回数は増加している。感染症対策のために、1回あたりの参加人数を制限したことが、参加率の減少につながっている。ふれあいプログラム活用校は、R3年度に比べて増加したが、目標に達することができなかった。感染症対策が緩和することにより今後、増加が見込まれる。 スタッフの高齢化に伴い新規ボランティアの獲得が課題となっている。スタッフ数は実施回数や活動内容に大きく影響するため、今後も各校に寄り添った支援が必要である。</p>								
今後の方向性	<p>運営主任や運営スタッフが安心して開催できるように、不安や要望をよく聞き、実情に応じた支援を行う。スタッフの不足については、引き続き大学と連携し、大学生の企画・運営を積極的に取り入れ、新たなふれあいプログラムの確立や、活用校数の増加を図る。</p>								

事業2		公民館と地域団体との協働事業						R4評価	
事業のねらいと概要								進捗	前年度比
<p>様々な地域コミュニティ協議会と連携し、世代間交流や地域の絆づくりなどの協働事業を行うことによって、それぞれの地域課題の解決を支援していきます。</p>									
R4事業計画		当初予算額	1,131 千円			決算額	757 千円		
<p>○地域の交流を軸とした、シビックプライド醸成を図る事業の実施 ○地域課題解消への意識啓発および、地域コミュニティ活動活性化に資する人材の発掘・育成</p>									
指標1	公民館と連携事業を実施する地域コミュニティ協議会数						R4評価		
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		35	58	59	60	61	1	81.6%	
進捗状況	56	36	38	31					
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて									
成果と課題	<p>市内公民館で地域コミュニティ協議会31団体と連携し、38講座を実施、延べ7,924人の参加があった。多世代交流を通じて地域活性化に取り組む同協議会との連携事業実施により、地域への愛着や貢献意識等の向上、シビックプライド醸成に寄与することができたと考える。連携数については、徐々に回復傾向にはあるが、新型コロナウイルス感染症の影響が少なかつたR元年度の水準には達していないが、新型コロナウイルス感染症が5類の取り扱いとなるため、途絶えていた団体との連携を再開していくため働きかけていく。</p>								
今後の方向性	<p>新型コロナウイルス感染症の取り扱いが5類となることに伴い、まずは新型コロナウイルス感染症の影響が少なかつたR元年度の水準まで、地域コミュニティ協議会との連携数回復を目指す。事業実施に消極的な団体も存在するため、安心して実施できる方法をその都度検討していきたい。</p>								

事業3		図書館と教育機関・企業との連携協力							
事業のねらいと概要		教育機関や地域団体、地元企業等と連携・協力を進め、地域課題の解決や地域活動を担う人材を育成するための資料や情報を提供します。 ・教育・社会福祉施設のほか、地域活動団体や民間店舗等を含む団体への図書館資料の貸出（学校除く） ・新潟大学附属図書館・新潟県立図書館との配本ネットワークの実施							
R4事業計画		当初予算額			0千円		決算額		0千円
○地域や企業への団体貸出利用の働きかけと本の提供		○新潟大学附属図書館・新潟県立図書館との配本ネットワークによる利用者への迅速な本の提供							
指標1	図書館から学校以外の団体への貸出冊数						R4評価		
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	3	103.7%	
進捗状況	72,312	59,471	64,026	66,390					
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて									
成果と課題	SNS等を活用した情報発信など広報に力を入れ、貸出冊数は前年度より増加したが、指標目標は達成できなかった。新潟大学附属図書館・新潟県立図書館との配本ネットワークを実施し、利用者への本の提供を迅速に行うことができた。特に新潟大学附属図書館は学外利用者の利用を一部休止しているため、学外利用者が資料を入手する手段となった。								
今後の方向性	企業や民間団体等への団体貸出を行い、地域の身近な場所へ本を提供することにより読書環境の充実に努める。引き続き、SNS等を活用した情報発信や各種団体への働きかけを行い、広報に努める。								

※デジタルメディアの普及に伴い、活字離れが進む中で、外部機関等との連携・協力により現状の貸出冊数を維持します。

◆推進委員からの意見・要望等

◆施策概要

参加者のニーズや社会の動向を踏まえた工夫・改善を通して、教育関係職員が自ら学び続け、高い専門性と豊かな人間性を伸長できるような研修プログラムを継続して実施します。

◆施策を構成する事業

事業の進捗平均

4.0

事業2		「学・社・民の融合」に関する研修の推進						
事業のねらいと概要								
「学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくり」を一層推進するため、地域教育コーディネーターやふれあいスクール運営主任等の実践力を向上させるための研修や、生涯学習・社会教育関係職員の専門的知識と技術を高める研修を開催します。								
R4事業計画		当初予算額	0千円			決算額	0千円	
○「パートナーシップ事業研修会」「ふれあいスクール事業研修会」の充実								
指標1	地域と学校パートナーシップ事業研修会参加者理解度(%)						R4評価	
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比
指標目標		95	95	95	95	95	4	99.0%
進捗状況	95	96	99	98				
指標2	子どもふれあいスクール研修会参加者理解度(%)						R4評価	
I型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比
指標目標		98	98	98	98	98	4	
進捗状況	98	98.5	-	98.9				
R4年度の事業に対する評価と次年度に向けて								
成果と課題	<p>地域と学校パートナーシップ事業研修会では、学校運営協議会制度と本事業のつながりを確認する視点と、年度末から年度始めにかけての職務上の留意点を具体的に示したことから、参加者の理解度が指標目標を上回った。</p> <p>子どもふれあいスクール研修会は、全て対面式で実施し、取組の様子を映像や画像で具体的に説明したこともあり、理解度は教職員が98%、運営主任が100%となった。</p>							
今後の方向性	<p>今後も事業通信の発行を続け、あわせて地域と学校パートナーシップ事業研修会での説明や、各校に配布する校内研修用スライドの中で業務の進め方を具体的に例示するなどして、関係職員の一層の理解推進を図っていく。</p> <p>子どもふれあいスクール研修会では、感染症対策でできなかった実技研修やグループワークをR5年度は取り入れ、参加者のニーズに応じていく。</p>							

※現在、高評価を得ている研修を、今後も内容の工夫・改善をすることで維持します。

◆推進委員からの意見・要望等